

球 技 の 攻 撃 の 戦 術 体 系

——バスケットボールとバレーボールの類似性と特殊性——

稲垣 安二¹・藤原 侑²・中田 茂³

宗内 徳行⁴・上平 雅史⁵・森田 惇悟⁶

(昭和 62 年 11 月 9 日受付, 昭和 62 年 12 月 1 日受理)

Researches on the Tactical Systems of Ball Games

—The Similarities and Peculiarities of Basketball and Volleyball—

Yasuji INAGAKI, Susumu FUJIWARA, Sigeru NAKADA,
Noriyuki MUNEUCHI, Masashi UEHIRA, and Jungo MORITA

The purpose of this research is to add further definitions to and revise the figure of special tactics of basketball offense (Y. INAGAKI; *Bulletin of Nippon College of Physical Education*, No. 11, March 1982) and to seek similarities, (A) and peculiarities (B), and the relation between them (A and B), of special tactics mentioned in the figure of special tactics of volleyball offense (S. NAKADA *et al.*; *Bulletin of Nippon College of Physical Education*, Vol. 16, No. 2).

The results are as follows:

1. Concerning the systematization of special tactics in basketball and volleyball, similarities of the following can be observed:

Principles and general rules for systematization.

Apprehending the basic movement pattern and special tactics.

Grasping the general method of offense.

2. In basketball, the "Man Ahead of the Ball" is executed in front of the goal, whereas in volleyball, it is executed above the net. Such peculiarities can be observed.

3. Through the systematization of special tactics of offense for basketball and volleyball, the peculiarities of special tactics for both sports are constructed on their fundamental similarities. In other words, the systematization of special tactics for both sports differentiates their peculiarities from their fundamental similarities.

1. 緒 言

バスケットボールやバレーボール（以下、両種目と略称する）等の集団のスポーツでは、それらの技能や技術を高める方法の1つに、両種目の技能構造¹⁾や技術構造に基づいて指導することがあげられる。従って、技能や技術を戦術行動や特殊戦術を構成する1つの要素²⁾としてとらえる場合には、両種目の戦術行動や特殊戦術の構造に基づいて指導するということもできる。

ところで、技能「構造」または技術「構造」、戦術行動や特殊戦術の「構造」という「構造」の用語はどのよ

うにとらえられるだろうか。広辞苑によると、「構造とは、幾つかの材料を組み立てて1つのものをこしらえる。組立てる」³⁾と説明している。この概念を、球技、就中、両種目の技能や技術にあてはめてみると、両種目のそれらの構造は、材料ともいわれる（あるいは、相当する）個々の技能や技術のそれぞれを、相互に依存させ全体を組み立てる。あるいは、各技能、各技術のそれぞれを相互に有機的な関連性をもたせ、全体を体系的につくるということもできよう。したがって、両種目の技能や技術、また戦術行動や特殊戦術の構造は、それらの個

¹ 体育学 14, ² 健康学 7, ³ トレーニングセンター, ⁴ 体育学 13, ⁵ 体育学 3, ⁶ 短大体育科 3

々の単なる整理というよりも、それらを組織化したり体系化したりした全体の仕組みとしてとらえることが必要になろう。これらのことを筆者のこれまでの研究から特に特殊戦術という用語に限定して述べると、両種目の特殊戦術を系統的に構築した特殊戦術体系になろう。そこで、両種目の特殊戦術の指導では、斯様な特殊戦術体系に基づいて行なうことが必要になることと考えられる。

然しながら、斯様な両種目の特殊戦術体系は、わが国を初め多くの諸外国においても、筆者らの報告を除いて殆んどみとめられないようである。

これまで、わが国では、両種目の技術体系や特殊戦術体系に代るものとして、例えば、文部省の中学校保健体育指導資料、第1集球技の指導¹⁾を初めとして、両種目の多くの図書等には、両種目の攻撃、防御の技能の全体を個人や集団、基本や応用、攻撃や防御の分類原理（または、分類基準）に基づいて整理し、これらを両種目の「技能構造」という用語でとらえられる場合が多くみられるが、これらには、技能相互の関連性やそれらの体系的な構造や組織もみられないので、前述の「構造」の概念やそれらにかかわる筆者の説明等から、これらを「技能構造」というには問題も残ろう。

さて、両種目の技能や技術、戦術行動や特殊戦術のなか、両種目の特殊戦術等にかかわるものについて、稲垣は、日本体育大学紀要（以下、紀要と略称する）、第6号、球技の戦術体系の一考察⁴⁾、紀要、第11号、球技の戦術体系に関する研究⁵⁾のそれぞれにおいて、バスケットボールの攻撃、防御の特殊戦術体系を報告している。また、中田らは、紀要、第15巻、第2号、バレーボールの攻撃における特殊戦術の体系化に関する研究⁶⁾、紀要、第16巻、第2号、バレーボールの特殊戦術体系に関する研究⁷⁾において、バレーボールの攻撃の特殊戦術体系をそれぞれ報告している。両種目の特殊戦術は、筆者らが紀要、第13巻、球技の特殊戦術に関する研究⁸⁾に報告するように、両種目の特殊目標、特殊戦術を特定な視点より考察すると、それらのとらえ方や方法等に類似性や特殊性（または、特異性）がみとめられることから、「両種目の攻撃の特殊戦術体系は、特定な視点より考察すると、それらには、類似性や特殊性がみとめられる」ように思われる。このことを本研究の仮説としてとらえることにする。

一方、学校体育（中学、高校の教科）の場をみると、多くの体育教師は、両種目の攻撃、防御の特殊戦術を全く異なるものとしてとらえ生徒に指導し、生徒もそれらを個別的にとらえ学習しているようである⁹⁾。

然しながら、仮りに、両種目の攻撃、防御の特殊戦術のなかに類似性がみとめられるとすれば、例えば、バスケットボールの単元が終り、つぎに、バレーボールの単元に入ると、単元の展開のそれぞれにおいて、両種目の攻撃、防御の特殊戦術のなかの類似するそれを基礎にし、その上に特殊性をとらえた指導や学習によって、これまでにみられないようなバレーボールの攻撃、防御の特殊戦術の向上を図ることが可能のように考えられる。このことは逆に、バレーボールの単元からバスケットボールの単元へ入る場合も同様になろう。

そこで、本研究は、稲垣が紀要、第11号に報告する「バスケットボールの攻撃の特殊戦術体系図、(2)」に、その後の研究によって得た知見から、その一部を修正、補足した攻撃の特殊戦術体系図と、中田らが紀要第16巻、第2号に報告する「(Ⅱ)の立場のバレーボールの攻撃の特殊戦術体系図」を一部、修正、補足したものについて、類似性と特殊性並びにそれらの関連性の報告である。

なお、小論は、紀要、第13巻、球技の特殊戦術に関する研究、副題として、バスケットボール等とバレーボールの類似性と特異性、とのかかわりを保ちながら論述することも必要になるので、小論に報告する内容の一部が、それと重複するところもあることをお断りする。

II. 両種目の攻撃の特殊戦術体系

1. 両種目の攻撃の特殊戦術体系図

(1) バスケットボールの攻撃の特殊戦術体系図の修正と補足

紀要、第11号に報告する「バスケットボールの攻撃の特殊戦術体系図、(2)」について、以下のように修正、補足する。

①「ボールを持たない攻撃者とボールを保持した攻撃者の行動」の表記を、「ボール保持者の行動とボールを保持しない味方競技者の行動」に修正する。

これは、バスケットボールは、集団的スポーツであるので、攻撃におけるチームの基本的な構成単位の2人を、特に攻撃側よりみるとボール保持者（または、ボール操作者）とこれにかかわる味方競技者になる。これらの競技者のなか、ボール保持者は、ボールを保持した瞬間その地点でシュートの可能な限り、積極的にシュートを試行することが原則になる¹¹⁾。これが不可能なときにボール保持者は、味方競技者へボールをパスするので、ボール保持者は、これにかかわる味方競技者よりも、競技的にも技術的にも優位におかれるためである。

② 「ドリブルイン」を攻撃の特殊戦術体系のなかから削除する

ドリブルイン（1対1の攻撃）は、「ボール保持者の行動とボールを保持しない味方競技者の行動」のなかのボール保持者の行動に含まれる。

③ ドリブル系統を、2系列より3系列に修正する

ドリブル系統の各戦術行動の基本構造とそれに基づく方法の考察から、ドリブラーが、個人の技能で相手との対峙を打破しドリブルするドリブルイン系、つぎに、ドリブラーが、自分の相手を味方1人の競技者の協力によって対峙を打破しドリブルインするインサイドスクリーン系、そして、後述するドリブルスクリーン系の3系列に分類した。

④ 各系統の「基本的な行動形態」の表記に、各系統の名称を付記した。

特殊戦術体系のなかの、各系統の特殊戦術の基礎として位置づけられている「基本的な行動形態」は、各系統においてそれぞれ前記と同様な表記によって示しているが、これらを明確にするため、これらを、「マン・アヘッド・オブ・ザ・ボール (Man ahead of the ball) 系統の基本的な行動形態」、「ドリブル系統の基本的な行動形態」、「ボール・アヘッド・オブ・ザ・マン (Ball ahead of the man) 系統の基本的な行動形態」の表記に修正した。

⑤ 「ゴールより離れた位置の空間からゴール近くの特殊戦術」と、「ゴール近くの位置の空間の特殊戦術」の表記を、「ゴールより離れた空間からゴール近くの空間へ近づく特殊戦術」と、「ゴール近くの空間からの特殊戦術」に修正する。

これは、各系統の表記を、それぞれの状態に応じて適切に表記するためである。

⑥ 特殊戦術体系図のなかのドリブル系統に、ドリブルスクリーン系を位置づけた。

ドリブルスクリーンは、ドリブラーが、ドリブラーの方へボールを受けるために進んでくる味方競技者の相手をスクリーンしながら、あるいは、スクリーンと同時に、味方競技者にパスすることであると定義するためである。

⑦ シュートの基本的な行動形態を、ゴール近くの空間からの特殊戦術の上に位置づけた。

これは、シュートの動作にも、3系統の基本的な行動形態と同様な基本形態がとらえられるためである。

図1は、紀要、第11号に報告する「バスケットボールの攻撃の特殊戦術体系図、(2)」を修正、補足したも

のである。

(2) バレーボールの攻撃の特殊戦術体系図

バレーボールの攻撃の特殊戦術体系図は、紀要、第16巻、第2号に報告する2つの特殊戦術体系図のなか、(II)の立場のそれを一部修正、補足したものである。以下は、それらの内容である

① 攻撃の特殊戦術体系図のなかに、攻撃の一般的な方法と特殊な方法を付記した。

このことについてみるに、セッターとこれにかかわる味方競技者によって試行される各系列の特殊戦術は、球技の攻撃の一般的な方法に基づいて試行される¹⁰⁾ので、これらを攻撃の一般的な方法、他の特殊戦術は、攻撃の特殊な方法とそれぞれ仮称し、これらを攻撃の特殊戦術体系図に付記した。

② 「3人の」各系列の特殊戦術並びに「4人の」各系列の特殊戦術を、「3人による」各系列の特殊戦術並びに「4人による」各系列の特殊戦術等に修正した。

3人のクイック法は、2人のクイック法という固有の特殊戦術を、3人の競技者のなかで生かすことになるので、これは、3人のクイック法というよりも、3人によるクイック法になろう。このことは、3人の競技者により試行される6系列の特殊戦術においても同様である。また、4人のクイック法は、2人のクイック法という固有の特殊戦術を、4人の競技者のなかで生かすことになるので、4人によるクイック法になる。他の系列の特殊戦術においても同様にとらえられる。

このように修正、補足されたバレーボールの攻撃の特殊戦術体系図が、図2である。

2. 両種目の攻撃の特殊戦術体系図にみられる類似性と特殊性

(1) 両種目の攻撃の特殊戦術体系の類似性と特殊性をとらえる視点

これらは、両種目の攻撃の特殊戦術体系の構造としてとらえられる各項目になろう。それらの各項目は、体系化のための原理や原則、攻撃の一般的な方法のとらえ方、基本的な行動形態、特殊戦術の展開等である。

(2) 両種目の攻撃の特殊戦術体系の類似性

i. 両種目の特殊戦術の体系化の原理原則

両種目の特殊戦術の体系化における原理原則のとらえ方は、バスケットボールについては稲垣が、紀要、第6号、球技の戦術体系に関する一考察⁴⁾のなかで、バレーボールについては中田らが、紀要、第15巻、第2号、バレーボールの攻撃における特殊戦術の体系化に関する研究⁹⁾のなかでそれぞれ報告するように、両種目の競争



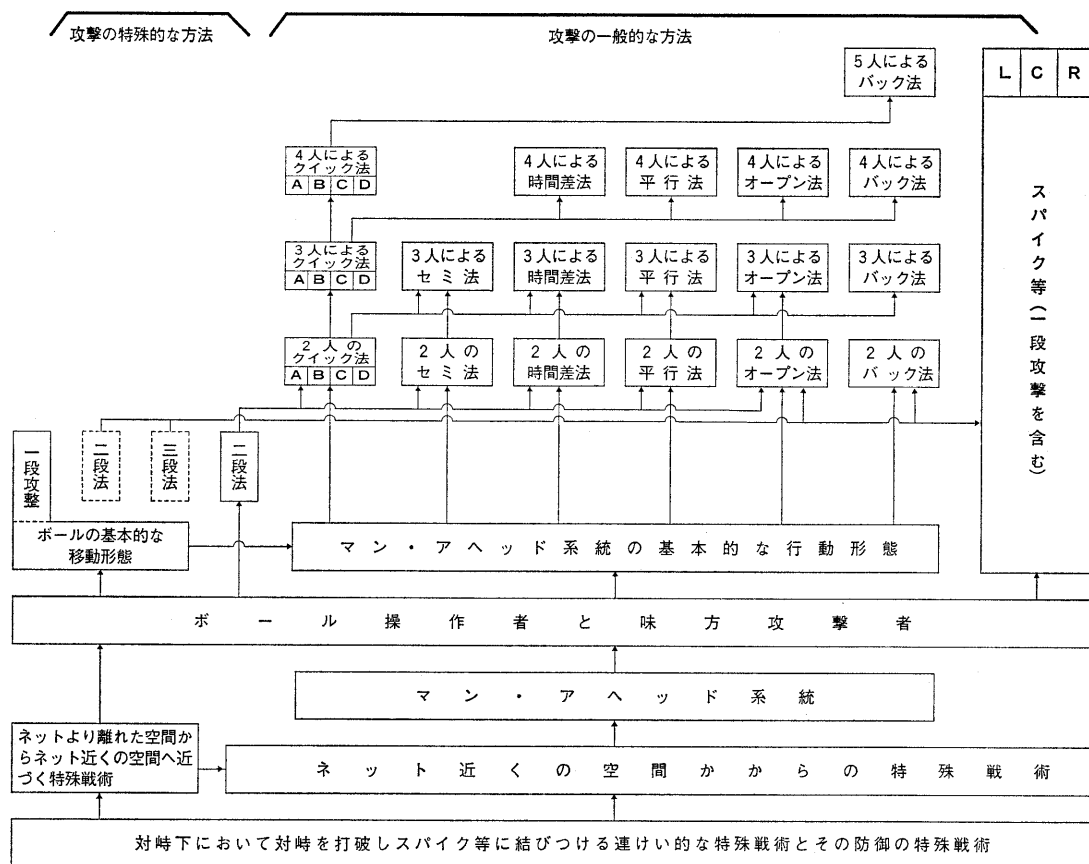


図2 バレーボールの攻撃の特殊戦術体系図 (1987, 中田, 稲垣, 宗内)

形態を単純化または簡素化し、ついで、競争形態の方法的な特徴をみることによってとらえられる特性を、兩種目の本質的な特性としてとらえ、これを兩種目の原理、原則におきかえている。そして、バスケットボールの原理、原則は、その本質的な特性より、「対峙下において対峙を打破し、シュートに結びつける連けい的な特殊戦術とその防御の特殊戦術」としてとらえている。バレーボールのそれは、「対峙下において対峙を打破し、スパイク等に結びつける連けい的な特殊戦術とその防御の特殊戦術」としてとらえている。

従って、兩種目の特殊戦術の体系化の原理、原則には、「シュート」と「スパイク等」の用語のみに差異がみとめられる他、兩種目のそれらには類似性がみとめられる。然し、「シュート」と「スパイク等」の2つは、いずれも得点を試行する特殊戦術になるので、それらを「得点する特殊戦術」という表記にあらためることもで

きよう。このような表記によると、兩種目の本質的な特性は類似してとらえられ、兩種目の特殊戦術体系の原理、原則には類似性がみとめられる。したがって、兩種目の特殊戦術の体系化のための原理、原則には類似性がみとめられる。

ii. 兩種目の攻撃の特殊戦術のとりえ方

バスケットボールの攻撃の特殊戦術は、競技者とボールがコートを往復する過程のなかで、ゴールからの距離の遠近によって、ゴールより離れた空間からゴール近くの空間へ近づく特殊戦術、ゴール近くの空間からの特殊戦術の2つに分類される。

バレーボールの攻撃の特殊戦術では、相手方コートの全体をバスケットボールのゴールに類似させとらえられる¹²⁾ので、基本的には、バスケットボールの攻撃のそれと同様に、ボールがコートを往復する過程のなかで、バスケットボールのゴールに代るネットからの距離の遠近

によって、ネットより離れた空間からネット近くの空間へ近づく特殊戦術、ネット近くの空間の特殊戦術の2つに分類される。したがって、両種目の攻撃の特殊戦術のとりえ方には類似性がみとめられる。

ii. 攻撃（防御）の一般的な方法のとりえ方

集団的スポーツにおいて共通する基本的な特性の1つに、相手方との集団的な対峙があげられる¹³⁾。これより、バスケットボールやバレーボールの攻撃は、「相手や相手方との集団的な対峙を打破し得点を追求する」ことになる。それに対して防御は、「攻撃側との集団的な対峙を維持し得点を阻止する」ことである。攻撃側が相手方との対峙を打破し得点を追求することを、筆者は、攻撃の一般的な方法¹⁴⁾と仮称しているが、これは、両種目において類似性がみとめられる。

iii. 基本的な行動形態のとりえ方

基本的な行動形態とは、集団的スポーツにおける集団構成の基本単位である2人のボール操作の基本的な行動形態のことである。これは、ボール保持者とこれにかかわる味方競技者が、相手方との対峙のなかで、対峙の打破を試行しながらボールを操作する基本的な行動形態である。これを、バスケットボールについてみると、マン・アヘッドシステムの基本的な行動形態を初めとする3システムの基本的な行動形態がみられ、バレーボールでは、マン・アヘッドシステムの基本的な行動形態のみがみられる。すなわち、ボール保持者（または、ボール操作者）とこれにかかわる味方競技者の両行動に基づく基本的な行動形態のとりえ方には、両種目に類似性がみとめられる。

(3) 両種目の攻撃の特殊戦術体系の特殊性

i. 基本的な行動形態の展開

集団的スポーツのなかで、バスケットボールは、「走」を基盤にし²⁾これに跳を加えた種目としてとらえられる。この種目は、ボール保持者とこれにかかわる味方競技者の両行動による基本的な行動形態が、既述のようにゴールより離れた空間からゴール近くの空間へ近づくなかで展開される。それらには、マン・アヘッドシステムの基本的な行動形態を初めとする3つのシステムの基本的な行動形態がみられる。これは、集団的スポーツにおける基本的な行動形態の全てが競技のなかで展開されることになる。

これに対してバレーボールは、「跳」の種目としてとらえられる²⁾。この種目は、ボール操作者とこれにかかわる味方競技者の両行動による基本的な行動形態は、ネット近くの空間のなかで、ボール操作者（または、セッター）を中心にした左右に広がる空間のなかで展開され

る。それには、マン・アヘッドシステムの基本的な行動形態のみがみとめられる。これは、集団的スポーツにおける3つの基本的な行動形態のなか、1つの基本的な行動形態のみの展開になる。

ii. 基本的な行動形態等にもみられる「アヘッド」について

両種目の基本的な行動形態等の展開の方法（または、数量化）に特殊性のみとめられることは、それらの特殊目標の達成の仕方や競争形態等が異なることに起因している。そして、これらの特殊目標の達成に必要な基本的な行動形態等における「アヘッド (ahead)」の方法に特殊性のみとめられることは、換言すると、両種目の攻撃における空間の利用の仕方に特殊性がみとめられることになる。すなわち、両種目のマン・アヘッドシステムの基本的な行動形態等の「アヘッド」をみると、バスケットボールでは、ボール保持者にかかわる味方競技者が、自分の相手との対峙の打破を試行し、ボール保持者よりも前方（ゴールの方向）の空間に先行して、ボール保持者からボールを受けることである⁵⁾。端的に述べると、味方競技者が、ボール保持者よりもゴールに連なる前方空間を効果的に利用してボールを操作する方法である。

バレーボールのマン・アヘッドシステムの基本的な行動形態等は、ボール操作者にかかわる味方競技者が、ボール操作者を原点にし、ネット近くの左右に広がる空間で、相手との対峙の打破を試行しながらボール操作者よりも上方空間に上昇する。これは、基本的には、ボール操作者にかかわる味方競技者が、相手との対峙の打破を試行しながら、ネット近くの空間にトスされたボールに協応することになる。しかし、相手方もそれに対応して行動（ブロック）するので、味方競技者（スパイカー等）は、相手方競技者（ブロッカー）の左右の空間等を利用し、相手との対峙を打破するためボールをスパイク等する方向を明確にとらえることである。これらのことを端的に述べると、味方競技者が、ボール操作者を基点にした左右に広がる空間を、効果的に利用しボールを操作する方法のことになる。

したがって、両種目におけるマン・アヘッドシステムの基本的な行動形態等の「アヘッド」の方法には、空間を効果的に利用してボールを操作する仕方に特殊性がみとめられる。

iii. 攻撃の特殊戦術における一般的な方法の展開または構成

既述のように、攻撃の一般的な方法のとりえ方には類似性がみとめられたが、然し、その展開、換言すると

攻撃の一般的な方法の構成では特殊性がみとめられる。すなわち、バスケットボールの攻撃は、競技者が、ゴールへ向った前方の空間のなかで、基本的には、①、相手や相手方との対峙を打破し、相手や相手方を弱点のある状態にする。②、その状態をゴール近くの空間まで進める。③、得点を追求する¹⁰⁾の3つの運動技術からなっている。ただし、攻撃側の競技者が、ゴール近くの空間で、相手や相手方との対峙の打破を試行した場合には、②が削除されるので①と③の構成になる。

バレーボールの攻撃は、競技者がネット近くの左右に広がる空間のなかで、基本的には、①、相手や相手方との対峙の打破し、相手や相手方を弱点のある状態にする。(弱点のある状態とは、ボール操作者にかかわる味方競技者が、ネットを挟んで相手と1対1の状態になることである)。② 得点を追求する⁹⁾。したがって、両種目の攻撃における一般的な方法の展開は、その構成並びに弱点のある状態等において特殊性がみとめられる。ただし、バスケットボールの攻撃においても、ゴール近くの空間で相手や相手方との対峙の打破を試行するときには、弱点のある状態のとらえ方に差異がみられるが然し基本的なバレーボールの攻撃の展開には類似性がみとめられる。

iv. 特殊戦術の種類

バスケットボールの攻撃は、マン・アヘッドシステムを初めとする3系統の特殊戦術がとらえられる。このなか、マン・アヘッドシステムには、カットイン系、スクリーンブロック系、アウトナンバー系の3系列がみられる。ドリブルシステムには、ドリブルイン系、インサイドスクリーン系、ドリブルスクリーン系の3系列がみられる。更に、ボール・アヘッドシステムには、ポスト系、ポストとスクリーンブロック系、アウトサイドスクリーン系の3系列がみられる。したがって、ゴールより離れた空間からゴール近くの空間へ近づく特殊戦術には、3系統に9系列がみられる。ゴール近くの空間からの特殊戦術にはシュートがみられる。そして、3系統の9系列の特殊戦術をシュートに結びつけることになる。

バレーボールの攻撃は、ネットより離れた空間からネット近くの空間へ近づくまで、一段攻撃を除いて、他の二段法、三段法は、いずれも、相手や相手方との対峙の打破を試行するよりも、単にボールをネット近くの空間へ進め(これは、ボールの基本的な移動形態)、ついで、相手方のコートへボールをゲットしている。したがって、ボール操作者とこれにかかわる味方競技者による相手や相手方との対峙の打破を試行する特殊戦術は殆んど

みとめられない。

元来、バレーボールの攻撃の主要な特殊戦術は、競技者の特性や競争形態からネット近くの空間にみられ、それは、マン・アヘッド系統のみの特殊戦術になる。それには、クイック系、セミ系、時間差系、平行系、オープン系、バック系の6系列がある。そして、これらの6系列の特殊戦術が、スパイク等の特殊戦術に結びつけられることになる。

このように、バスケットボールは、ゴールより離れた空間からゴール近くの空間へ近づくなかに、3系統、9系列の特殊戦術がみられるに対して、バレーボールは、バスケットボールのゴールに代るネット近くの空間に1系統、6系列の特殊戦術がみとめられる。

v. 特殊戦術の高度化の構造

球技の各種目における攻撃の各系統の特殊戦術の多くは、その系統の特定な基本的な行動形態に基づき、ボール保持者にかかわる味方競技者の漸増的な参加によって、特殊戦術の高度化を志向しているように考えられる。この考え方に基づいて、バスケットボールのマン・アヘッド系統のカットイン系の特殊戦術をみると、マン・アヘッド系統の基本的な行動形態を、カットイン系の基本的な行動形態としてとらえ、カットインのⅠ型¹⁴⁾が試行され、これに基づいてカットインのⅡ型¹⁴⁾が展開され、更に、これらが4人、5人の競技者によるカットインプレーに生かされる。このような特定な基本的な行動形態を基礎にし、競技者の漸増的な参加による特殊戦術の高度化は、マン・アヘッド系統の他の系列の特殊戦術や、他の系統の各系列の特殊戦術にも類似してとらえられる。したがって、バスケットボールの攻撃の特殊戦術は、各系統の各系列において、各系統の特定な基本的な行動形態に基づき、味方競技者の漸増的な参加によって高度化が志向されるという構造をもっている。

バレーボールの攻撃の特殊戦術は、マン・アヘッド系統の各系列の特殊戦術になる。バレーボールの攻撃の特殊戦術の高度化には、2つの方法がみられる。その1つは、3人の競技者による攻撃の特殊戦術までは、マン・アヘッド系統の基本的な行動形態を基礎にした各系列の行動に基づき、味方競技者の漸増的な参加によって、それらの特殊戦術の高度化を志向する場合と、その2は、例えば、3人の競技者によるセミ法、時間差法、平行法、オープン法等や4人による時間差法を初めとする5系列の各方法並びに5人によるバック法の特殊戦術のように、それらの系列の特殊戦術の高度化を、2人のクイック法や3人によるクイック法等の行動を1つの要素に

し、その系列の特定な行動に基づき味方競技者の漸増的な参加によって志向する方法である。

したがって、バレーボールの特殊戦術の高度化には、マン・アヘッド系統の基本的な行動形態を基礎にし、ボール保持者にかかわる味方競技者の漸増的な参加によって、その系列の特殊戦術の高度化を志向する場合と、2人の、また、3人による等のクイック系という特殊戦術を1つの要素にし、各系列の特定な行動に基づき、味方競技者の漸増的な参加によって、各系列の特殊戦術の高度化を志向する場合の2つがみられることに、バスケットボールの特殊戦術の高度化とは、構造的に異なる特殊性がみとめられる。

3. 両種目の攻撃の特殊戦術体系にみられる特殊戦術等の類似性と特殊性の関連性

筆者は、紀要、第13巻、球技の特殊戦術に関する研究、副題として、バスケットボール等とバレーボールの類似性と特異性の報告のなかで、それらの関連性について述べているが、ここでは、その報告の副題に記述する「特異性」を、それに相当する用語の「特殊性」にあらため、紀要、第13巻に報告するそれらの関連性の考察の必要性に基づいて、バスケットボールとバレーボールの特殊戦術体系のなかにみられる基本的な行動形態等とそれに基づく特殊戦術等の若干について、類似性と特殊性の関連性を述べる。

① 両種目の特殊戦術、基本的な行動形態のとりえ方には類似性がみとめられるが、それに基づいて特殊戦術等を展開させるための空間の利用方法等には特殊性がみとめられる。これらのことは、基本的に類似してとらえられる特殊戦術や基本的な行動形態が、前方と左右の異なる空間で、相手や相手方との対峙の打破を特殊的に試行する関連性になろう。

② 両種目の攻撃の一般的な方法のとりえ方には類似性がみとめられるが、一般的な方法の展開、即ち、戦術行動の展開には特殊性がみとめられる。これは、とりえ方において類似している攻撃の一般的な方法が、両種目の特殊目標や競争形態等の特殊性によって、数次的に異なる段階の戦術行動によって試行されることになる。したがって、類似してとらえられる基礎の上に、特殊性を分化させて試行する関連性になろう。

③ 走より跳への展開

両種目の特殊戦術の特殊性というよりも、両種目の特殊戦術の基礎となる人間の基本的な運動能力の基本型のことであり、したがって、人間の基本運動のことになる。それだけに本筋より離れるとともに極めて短絡的な

とらえ方であると指摘をうけるかも知れない。

このことについて述べると、跳は、走の特殊的且発展的な行動形態であることを前提にすると、バレーボールは、G. シュテイラーの述べるように、跳を主体にした競技になるので、走と跳を主体にした競技であるバスケットボールの前段階の種目としてとらえられないだろうか、もしも、このことがみとめられるとすれば、両種目は、バスケットボールからバレーボールへ移行するという関連性をとらえることもできよう。これは、既述のように、人間の基本運動の発展的な展開として、走より跳への発展を視点にしてとらえた両種目の関連性の1つになろう。

III. 結 語

本研究は、紀要、第11号に報告するバスケットボールの攻撃における特殊戦術体系図、(2)を修正、補足し、それと紀要、第16巻、第2号に報告するバレーボールの攻撃の特殊戦術体系図、(II)の立場を一部修正、補足したものについて、それらのなかにみられる特殊戦術等の類似性、特殊性並びにそれらの関連性の追求である。

両種目は、攻撃の特殊戦術の体系化の原理、原則、基本的な行動形態、特殊戦術のとりえ方、攻撃の一般的な方法のとりえ方等には類似性がみとめられる。そして、両種目の特殊戦術等の展開の空間は、バスケットボールがボール保持者よりも前方の空間であるに対して、バレーボールは、ネット近くの空間でボール操作者を基点にした左右に拡がる空間であることに特殊性がみられ、更に、それらの空間で試行される「アヘッド」の方法にも同様に特殊性がみられる。両種目の攻撃の特殊戦術の類似性と特殊性の関連性では、特殊戦術のとりえ方には類似性がみとめられるが、特殊戦術を展開する空間やアヘッドの方法には特殊性がみとめられた。このようなことから、両種目の攻撃の特殊戦術体系は、両種目に類似する攻撃の特殊戦術等のとりえ方に基づいて、それぞれ特殊な特殊戦術を構築されているといえよう。つまり、球技のなかの両種目の特殊戦術体系は、類似してとらえられる基礎の上に、特殊性を分化させ体系化されているといえよう。

(小論は、稲垣をチーフとする6人の共同研究であるが、執筆は、稲垣が担当した)

引用・参考文献

- 1) 文部省：中学校保健体育指導資料、第1集球技の指導、大阪書籍、28、117 (1973)

- 2) G. シュティラー著, 谷釜, 稲垣訳: ギュンターシュティラーの球技戦術論, 新体育, 新体育社, 7月号, 57, 8月号 35, 55 (1980)
- 3) 新村 出: 広辞苑, 岩波書店, 747 (1975)
- 4) 稲垣安二: 球技の戦術体系の一考察. 日本体育大学紀要第6号, 14 (1976)
- 5) 稲垣安二: 球技の戦術体系に関する研究, 日本体育大学紀要, 第11号, 2-3 (1982)
- 6) 中田他: バレーボールの攻撃における特殊戦術の体系化に関する研究, 日本体育大学紀要, 第15巻第2号, 83, 86-88, (1986)
- 7) 中田他: バレーボールの特殊戦術に関する研究, 日本体育大学紀要, 第16巻, 第2号, 73 (1987)
- 8) 稲垣他: 球技の特殊戦術に関する研究, 日本体育大学紀要, 第13巻, 2-3 (1984)
- 9) 横浜市教育委員会: バスケットボールの指導法, 横浜市港南スポーツセンター (1984)
- 10) 稲垣安二: 球技の戦術に関する一考察, 日本体育大学紀要, 第10号, 4-5 (1981)
- 11) 桜体球技研究会: バスケットボールの技術と戦術 1986
- 12) 稲垣他: 球技に関する研究, 日本体育大学紀要, 第8号, 6 (1979)
- 13) 稲垣他: 球技の戦術の諸概念に関する一考察, 日本体育大学紀要, 第15巻, 第2号, 6 (1986)
- 14) 稲垣安二: バスケットボール技術講座, 月刊バスケットボール, 巻末特集, 4月号, 日本文化出版, 100-101 (1974)